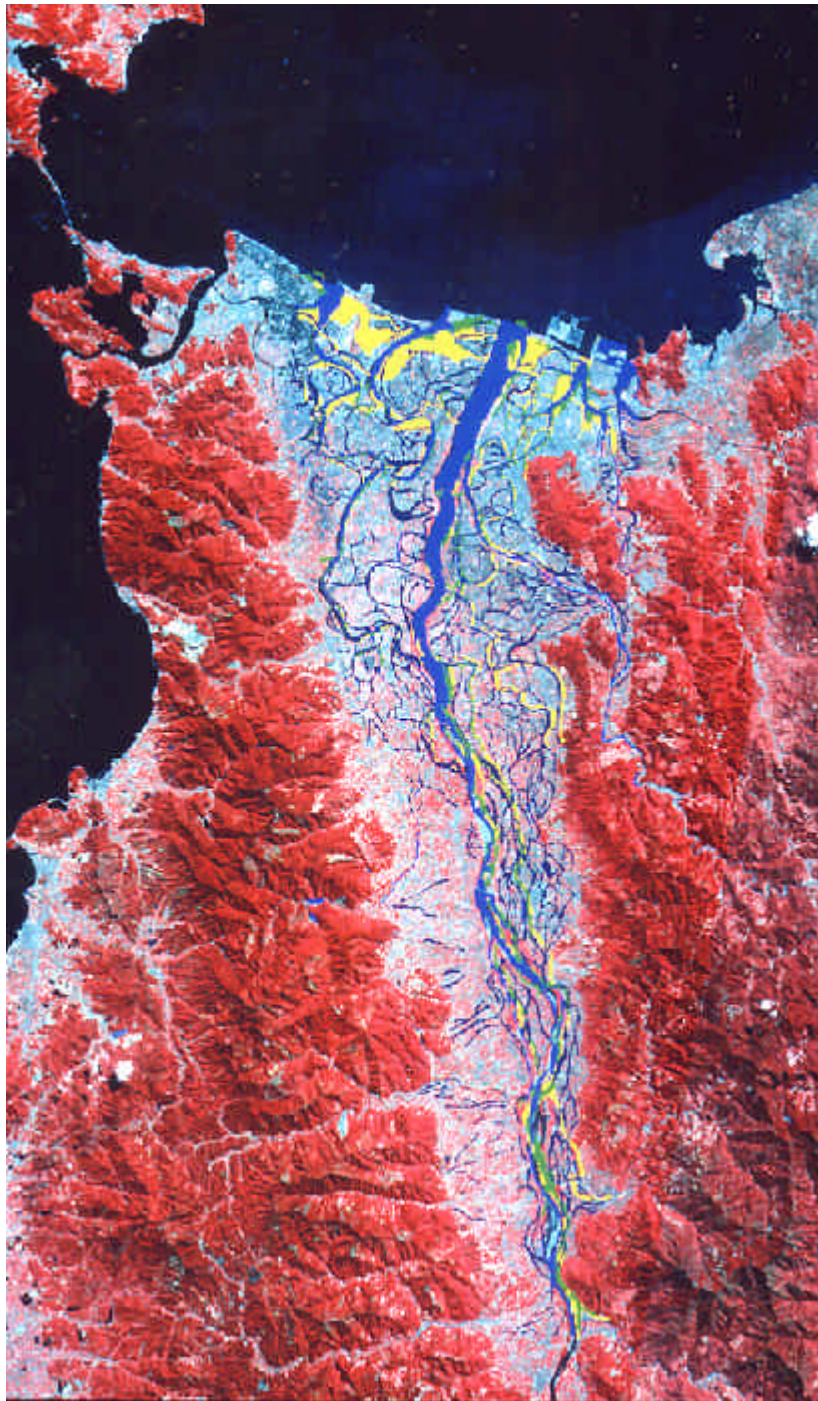


10 - 4 . 吉野川の堤防の歴史

(1) 河道の変遷

吉野川は、時代毎に流路をかえ変化してきた結果、徳島平野には、いたるところに旧河川跡が存在する。



コンピュータグラフィックで見る河道の変遷

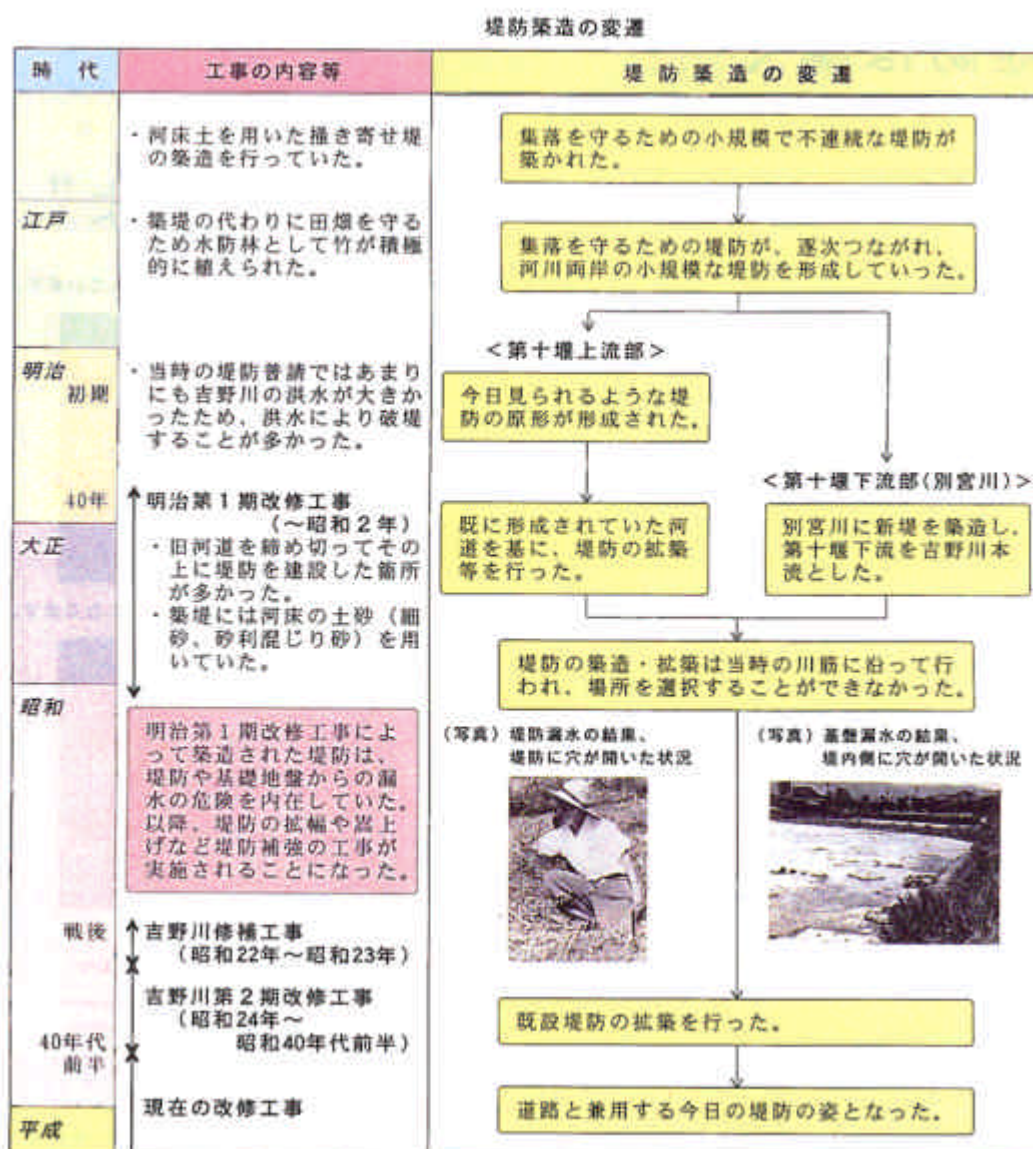
(2) 築堤の歴史

江戸時代は、地先を守る小規模で不連続な堤防がいたる所で施工されていた。本格的な築堤が行われたのは、明治時代の第1期改修工事以降である。

《解説》

吉野川の堤防築造の変遷を、以下に示している。

記録に残っている最も古い堤防は、文明年間(1469～1487)に細川勝元が作らせた「掻き寄せ堤」(現在の山川町山崎字坂田～川島町学)と言われている。



a) 藩政時代の水防竹林

吉野川沿いの水防竹林は、ほとんどが藩政時代に植えられたものである。吉野川の洪水を制御できる規模の堤防を造ることができなかった時代に、藩は川沿いに竹を植えることで、洪水の被害を軽減しようとした。

大正15年に竣工した吉野川改修工事により、岩津より下流には一部を除いて、連続堤が築かれ、伐採されてしまった竹林も多くあるが、岩津より上流では、今も水防竹林が残っている。



b) 第一期改修（明治40年～昭和2年）

吉野川の本格的な治水工事に着手した。この工事により、河口から岩津に至る約40kmの吉野川下流部の両岸に連続堤が築かれ、下流域において洪水被害が大幅に軽減された。

また、別宮川（吉野川）を放水路として整備、善入寺島の全島買収、第十樋門の新設などが行われた。

c) 第二期改修（昭和24年～昭和40年代前半）

戦後の荒廃と昭和20年の枕崎台風、昭和21年の南海道地震などを契機として、第二期改修に着手した。

第一期改修事業で築造された堤防の漏水対策や堤防の高さが不足する箇所盛土などを行なった。

また、内水対策や柳瀬ダム、早明浦ダム等の建設に着手している。

d) 昭和40年代以降

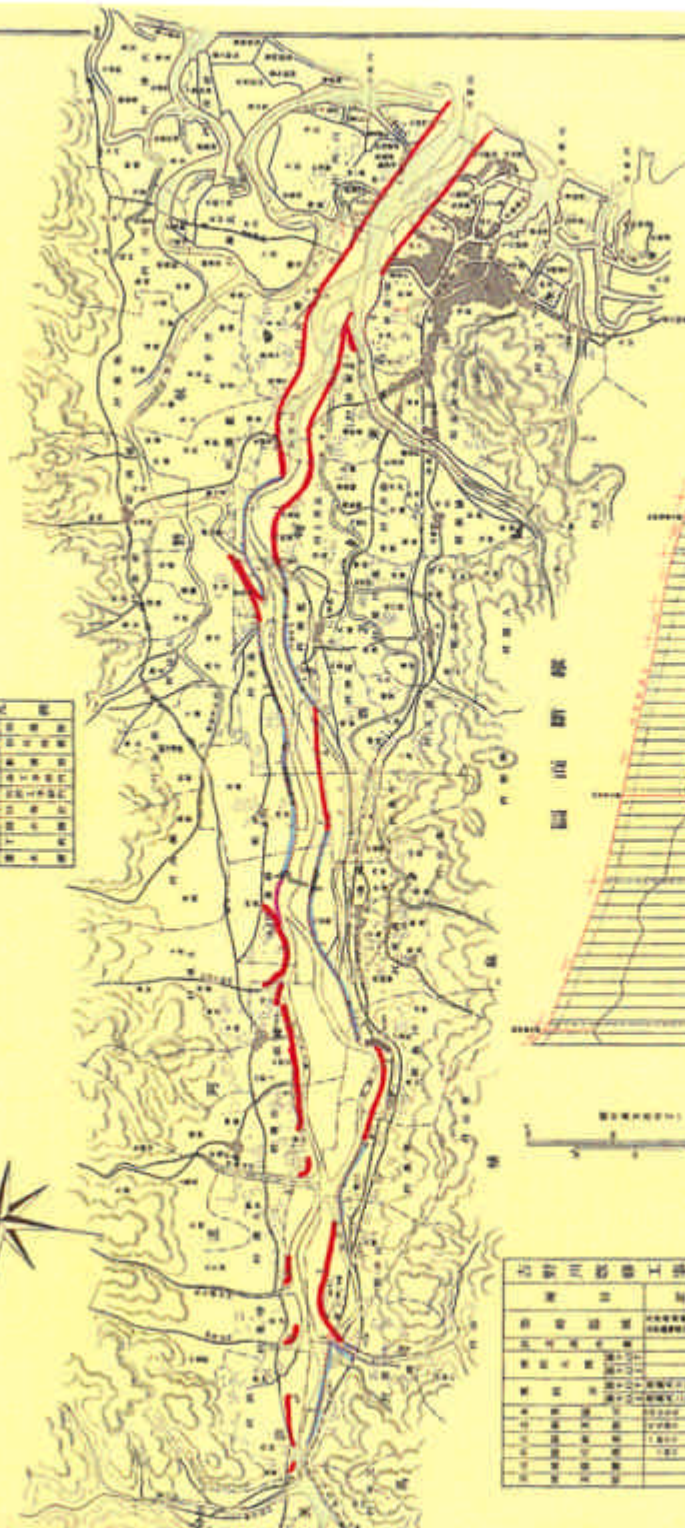
岩津～池田間及び旧吉野川、今切川を直轄編入し、それら区間の築堤工事などの事業を行っている。現在、美馬橋（河口から54.4km付近）下流については概ね堤防は完成しているが、なお、無堤区間を残している。

吉野川改修工事(第1期改修工事)

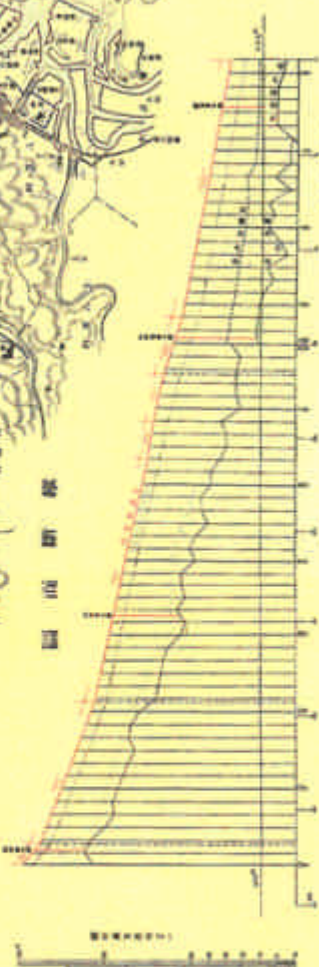
吉野川改修工事平面圖



○	河川
▭	堤防
▨	橋
▧	築港
▩	築港
▪	築港
▫	築港
▬	築港
▭	築港
▨	築港
▧	築港
▩	築港
▪	築港
▫	築港
▬	築港
▭	築港
▨	築港
▧	築港
▩	築港
▪	築港
▫	築港
▬	築港

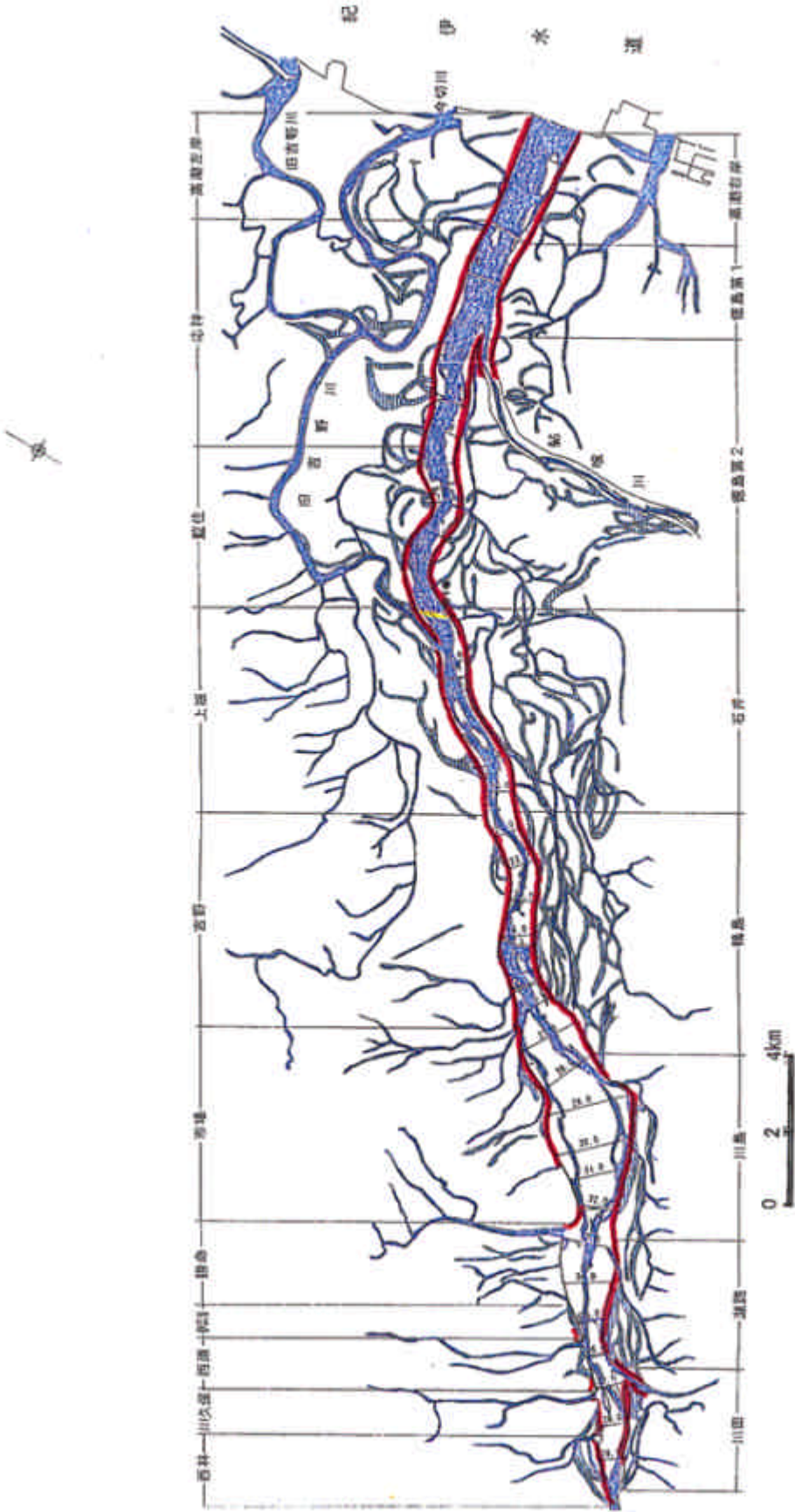


吉野川改修工事



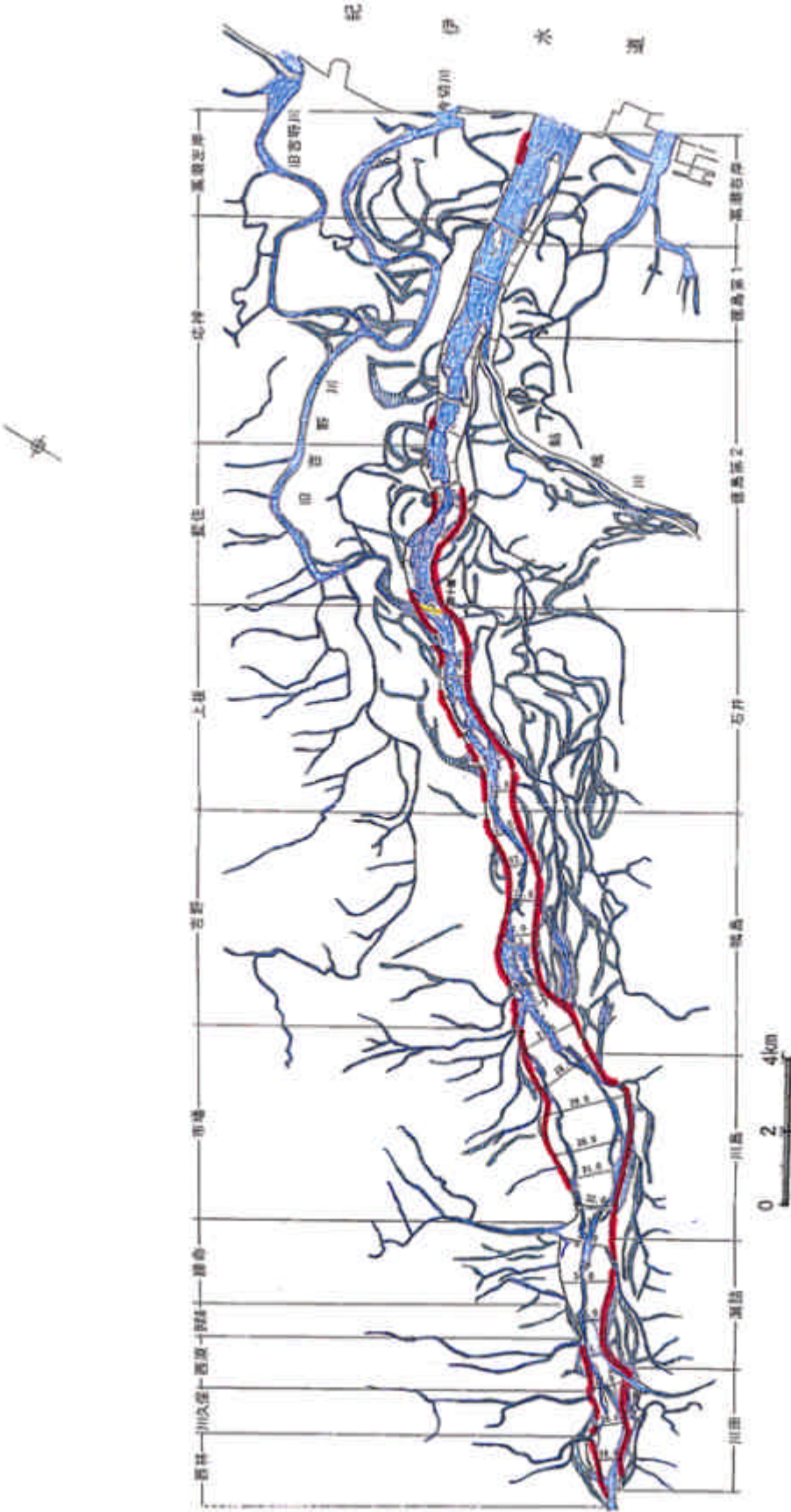
吉野川改修工事主要施設表	
施設名	施設概要
第一期改修工事	吉野川中流部河床改良工事
第二期改修工事	吉野川下流部河床改良工事
第三期改修工事	吉野川上流部河床改良工事
第四期改修工事	吉野川河口部河床改良工事
第五期改修工事	吉野川支流河床改良工事
第六期改修工事	吉野川河口築港工事
第七期改修工事	吉野川河口築港工事
第八期改修工事	吉野川河口築港工事
第九期改修工事	吉野川河口築港工事
第十期改修工事	吉野川河口築港工事
第十一期改修工事	吉野川河口築港工事
第十二期改修工事	吉野川河口築港工事
第十三期改修工事	吉野川河口築港工事
第十四期改修工事	吉野川河口築港工事
第十五期改修工事	吉野川河口築港工事
第十六期改修工事	吉野川河口築港工事
第十七期改修工事	吉野川河口築港工事
第十八期改修工事	吉野川河口築港工事
第十九期改修工事	吉野川河口築港工事
第二十期改修工事	吉野川河口築港工事

本図は、昭和十一年三月三十一日現在のものである。



第一期改修工事 築堤工事区間





第二期改修工事 かさ上げ、腹付け工事区間

- 水 系
- 旧河道
- 第二期築堤

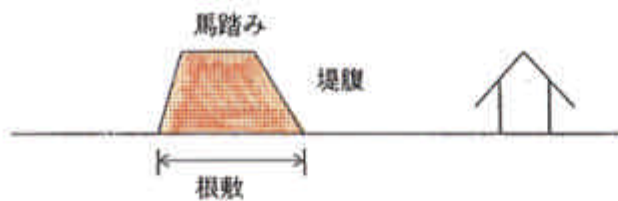
(3) 堤防の変遷

河川堤防は、その多くが長い治水の歴史を経て形成されてきた。

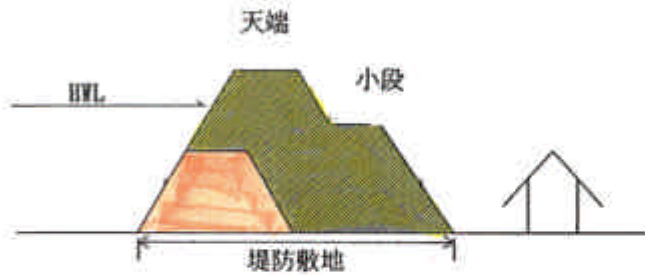
《解説》

吉野川の堤防においても、河床土を用いた「掻寄せ堤」に始まり、以後は災害を契機として嵩上げや拡幅による補強が長期間にわたって繰り返され、現在の姿に至っている。

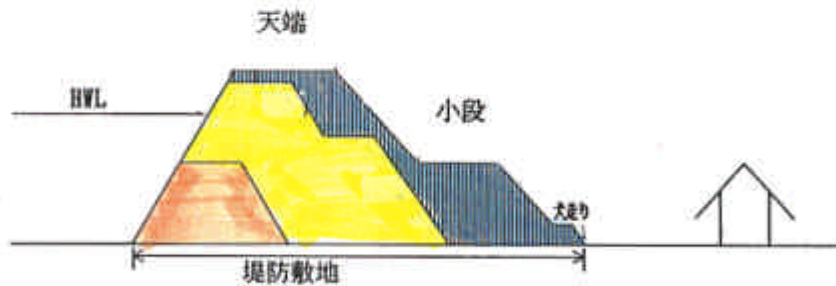
明治初期（幕末～明治8年）



第一期改修（明治40年～昭和2年）



第二期改修（戦後）



現在

